

No. 248	当院におけるデイケア利用者の実態調査（集団栄養指導・調理実習の実施と効果）		
申 請 者	栄養管理室	栄養士	太嶋 友里
開 催 日		迅速審査	令和3年5月14日
研究の概要	筋強直性ジストロフィー (DM) は常染色体優性遺伝性で成人では最も頻度の高い筋ジストロフィーである。原因遺伝子により筋強直性ジストロフィー1型 (DM1) と2型 (DM2) に分類され、本邦ではDM1が多く、DM2は数家系の報告があるのみである。DM1は骨格筋罹患による筋萎縮や筋力低下に加え、中枢神経系や代謝・内分泌系にも異常を生じる全身性疾患である。特に他の筋ジストロフィーと異なり、DMIにおける心機能障害は伝導障害が主体で心房細動の原因となる。心房細動は心原性脳塞栓症の原因であり、DM1患者における脳梗塞発症の報告は少なく、脳MRIを用いた評価は2017年の後ろ向き観察研究のみである。心房細動患者における心原性脳塞栓症リスクを評価するCHADS2スコアがDM1患者において有用である可能性が示されている。これらの背景をもとに、DM1患者を対象にした脳梗塞発症頻度とCHADS2スコアによる発症予測に関する多施設共同非盲検		

No. 251	医療観察法病棟に勤務する看護師のセルフ・エフェカシーに関する分析		
申 請 者	看護部	看護師	畠山 督道
開 催 日		迅速審査	令和3年7月20日
研究の概要	2020年4月、NHO北陸病院（以下当院とする）で職員から新型コロナウイルスの陽性者が1名報告された。その後、当該職員が勤務する病棟でPCR検査が実施されたが、職員・患者ともに全員陰性であり、クラスター化することなく経過した。しかし、今回PCR検査では全員陰性となったが、偽陰性だった可能性も考えられ現在までに無症状者が勤務していた可能性がある。現在自粛要請が解除されたが第2波の発生は懸念されている。今後、第2波に至った際には、無症状で通常の生活を継続している人の存在を踏まえて、感染防止対策を行うことが必要となる。 今回、新型コロナウイルスの抗体検査を実施することで、職員及び患者の抗体の有無を確認し、無症状者が実際にどれだけ存在したかを明らかにし、『新しい生活』に沿った院内感染防止策の在り方における一考察としたい。		
判 定	承 認		

No. 252	シンボル		
---------	------	--	--

No. 253	A病院医療観察法病棟に勤務する看護師の感情労働の特徴と精神健康度GHQに及ぼす影響		
申 請 者	看護部	看護師	澤田 充朗
開 催 日		迅速審査	令和3年7月21日
研究の概要	(1) 研究の背景 パーキンソン病は、振戦、動作緩慢、筋強剛、姿勢保持障害を主な運動症状とする病気で、50歳以上で起こる病気である。進行すると姿勢異常が認められ、関節可動域制限も出現する。これらに対し、自主的なリハビリテーションでは、症状の緩和に限界があり、薬剤の効果も限定的である。そこで、在宅でも訓練可能な懸垂機器を用いた理学療法を行っている患者の姿勢改善効果、関節可動域制限の緩和効果を検討する。 (2) 研究の対象 対象は、2020年4月から当院に通院もしくは入院しているパーキンソン病患者で懸垂バーを用いた理学療法を行っている者40例 (3) 研究方法 患者の身長、体重、関節可動域制限を考慮し、手が届く範囲の高さで、理学療法士の監視下で10秒間バーにぶら下がる。理学療法中は、その間の心拍数の変動を手首装着型モニターで監視し、検査前後の血圧を測定する。 (4) 評価項目 前屈、側		

No. 255	神経難病に携わる専門職に対してリフレクションを行う意味 ～関わりの視点を通しての自己の変化について～		
申 請 者	看護部	看護師	島 聡美
開 催 日		迅速審査	令和3年8月11日
研究の概要	当病棟にはいわゆる動く重症心身障がい児（者）（以下、重症児（者））と呼ばれる患者が多数入院している。動く重症児（者）は運動機能は一定以上保たれているが、精神遅滞があり、自らの意思を言葉で表現することが困難である。自傷や他害、便触りや放尿等の不潔行為、こだわりなど行動障害が顕著であり、強度行動障害を有する者も居る。そのストレスは動きや表情、時には行動障害で表現しており、要求が通らないなどストレスが高まるような状況において行動障害が強くなることもある。当病棟では入院生活において、多職種カンファレンスで観察した事を共有し、一人一人に合わせた対応を行っている。しかし、ストレスや行動障害を減らすため、さらに良い関わりを行っていくために、行動や表情に表れないストレスを、どのような場面で感じているか知りたいと考えた。 行動や表情に表れないストレスは、複数の生理的指標を用いて測定をすることができると考えられる。重症児（者）については、永田らは心		

No. 256	重症心身障害者におけるがん医療の実態調査（NHOネットワーク共同研究）		
申 請 者	診療部	第1神経科医長	池田 真由美
開 催 日		迅速審査	令和3年11月2日
研究の概要	本研究では、看護師が患者に抱いた陰性感情と対処法について精神科病棟の経験と医療観察法病棟の経験に違いがあるかを明らかにする。 2005年医療観察法病棟は、重大な他害行為をした治療可能な精神疾患患者が社会復帰のため必要な濃密な治療を受けるために設置された病棟である。病棟設置の根拠となる法律は「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」（以下、医療観察法：法律第72号2003年成立・公布）であり、この法律で定められた重大な他害行為は、放火、強制わいせつ、殺人、傷害、強盗を指し、これらの未遂も含めている。この病棟に入院する患者は看護師があまり出会うことのない法を犯している者たちである。 精神科看護師の陰性感情に関しては、2000年代以降から研究が増加する傾向にあり、2016年までには130件以上の研究が行われていた。 研究者が医療観察法病棟に勤務して、対象者（医療観察法では患者を対象者と呼ぶが以降患者に統一）に対する陰性感情の持ち方が、精神科病棟の患者とは異なる印象を受けた。看護師にとって否定的感情は患者への関わ		

No. 257	重症心身障害者における新型コロナウイルスワクチンの安全性に関する調査研究（NHOネットワーク共同研究）		
申 請 者	診療部	第1神経科医長	池田 真由美
開 催 日		迅速審査	令和3年11月4日
研究の概要	統合失調症は慢性疾患であり、薬物療法は再発抑制を達成する上で重要である。そのため患者のアドヒアランスの獲得は薬物療法を継続させて治療を成功させるために大切な要素の一つである。しかし、統合失調症患者の多くはアドヒアランス不良であり、薬剤の飲み忘れや服薬中断の経験があるとされている。一方、内服の抗精神病薬に対して持続性注射剤（LAI）は2～4週に1回の注射をすることで血中濃度が安定するため毎日の内服をなくし飲み忘れのリスクを減少させ、再発する割合を低下させると言われている。当院ではリスパダールコンスタ筋注用、ゼプリオン水濁筋注シリンジ、エビリフアイ持続性水濁筋注用の3種類のLAIを採用しており、これらを使用している患者も一定数見られる。LAIは服薬継続が困難な患者に対し有用な選択肢の一つであると考えられるが、当院においてLAI使用患者の治療の脱落は時折見られる。LAI治療から脱落する患者の数を減少させるためには		